



国民の森林・国有林

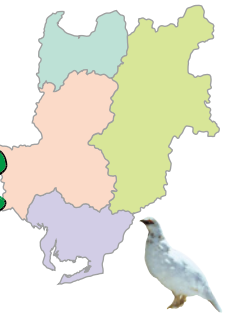
林野庁
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



木村次長から歓迎の挨拶

森林・林業について理解を深めていただくために

本曾の国有林見学会を開催

主な項目	○ 国有林作業見学会を開催	P2
	○ 各地からのたより	P4
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P7
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P8

木曾の国有林見学会(秋季)を開催

「木曾森林ふれあい推進センター」

名古屋事務所・木曾署 十月二十七日、

木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾川下流域の住民を対象とした「木曾の国有林見学会2016秋季」を開催しました。

この催しは、江戸時代から深い繋がりを持つ木曾地域と名古屋の関係や、森林・林業について理解を深めていただくことを目的に、下流域の都市住民の方々を対象に行われています。木曾川源流域の国有林を訪ね、木曾地域の林業の歩み、木材輸送方法（伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産）及び名古屋の熱田白鳥湊にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の生産地を実際に見聞きしていただく学習講座で、昨年度から開催し、本年度も春に続き二回目の開催となりました。口コミ等により名古屋市民から好評となり、今回は十名がキャンセル待ちといった状況の中、実施しました。

当日は快晴に恵まれ、名古屋市内を中心に参加された四十九名とスタッフ二名の五十一名が名古屋事務所「熱田白鳥の歴史館」を出発。一路木曾路に向かいました。赤沢自然休養林到着後は、木村次長をはじめガイド等を行う国有林職員八名により現地案内を実施しました。

参加者はこの見学会に先立ち、十月

十八日に、名古屋の木材産業と森林・林業の歴史や、国産材を使うことの意義、上流域の森林（国有林）と下流域の名古屋市の結びつきなどを同歴史館で事前学習しました。

また、途中からバスに乗りしたふれあい推進センター所長から、赤沢自然休養林までの景勝地等の説明を受け、想いを膨らませながら木曾ヒノキの聖地へ向かいました。

赤沢自然休養林に到着後、紅葉の時期には少し遅れたものの秋空の暖かな日差しの下、木村次長から歓迎の挨拶の後、昼食をとりました。森林鉄道で木曾ヒノキの森林と溪流が織りなす景色を眺めながら終点の「丸山渡停車場」に移動し、職員のガイドにより、歴史とともに育まれてきた樹齢三百年余りの木曾ヒノキやサワラが生い茂る林内を散策し、木曾の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関



大勢の参加者を前に木村次長から歓迎の挨拶

わり、木曾五木の樹種の見分け方や特徴などを学びました。



職員の説明を聞き、確認する参加者

参加者からは「楽しかった」「森林鉄道が素晴らしかった」「この森林がいつまでも存続することを願う」との感想や「できれば希望者全員が参加できるように」「季節毎に催せないか」といった要望が聞かれました。

なお、この催しは、木曾復興支援の取り組みとしても位置づけており、チャリティーとして参加費用の中に地元の特産品等の購入（お土産代）が含まれています。

今回も、王滝村のお弁当と郷土の食材である「シイタケ」や「すんき」を使ったカレー、野沢菜入りの「おやき」などがお土産として選ばれ、今後も実施にあ

たり参加者の意見・要望をとらえ、より意義のある催しとなるよう努めていきたいと考えています。

「参加者アンケートの結果はこちら」

<http://www.rinyamati.go.jp/chubu/raigo/28AKI.html>

現場を知って木材利用推進しよう！

国有林作業現場等見学会を開催

「名古屋事務所・岐阜署」十一月一日、木材利用の推進を図るため、名古屋木材組合加盟の業界関係者や建築士、国交省職員と一般公募により申し込みがあった名古屋市民ら四十五名が岐阜署管内の生産現場と民間合板工場を見学しました。

この見学会は、業界関係者には木材搬出の現場における苦労や工夫など現状認識をする中でより木材の価値を高める取り組みを強化していただくことを、建築士や国交省職員と一般公募の方々には今後木材利用推進を図るうえで山の現状や木製品の認識を深めていただくことを目的に開催したものです。

熱田白鳥の歴史館に集合した参加者は木村名古屋事務所長より「本日の見学会の一つの機会として木材利用の推進に繋がって欲しい」との挨拶を受けた後、バス二台に分乗し出発しました。

最初の見学地である岐阜署管内の乗政国有林に着いた一行は作業地へ向かう歩道入口において藤村岐阜署長から歓迎の挨拶を受けた後、担当職員より見学する製品生産事業地の概要説明と木材の搬出



安全のため遠巻きに伐倒を見学



伐倒手順や概要などを説明の様子

システムなどについて説明を受けてから徒歩で作業地まで移動、高齢級（百三年生）間伐の伐採作業を見学しました。百年を超えるヒノキの太木が手順どおり予定した方向に倒されると、参加者から思わず拍手が起ころなど見応えがありました。



合板工場の説明を受けながらの見学の様子

た。歩道入口まで戻ると参加者から「間伐する木はどのような基準で選木されるか」「一人一日に何本程度伐倒するのか」「搬出された原木はどこへ運ばれるのか」など矢継ぎ早に質問が出され、担当者からの回答に真剣に耳を傾けていました。午後は、次の見学地である中津川市の「森の合板協同組合」へ移動、到着すると斎藤専務理事より歓迎の挨拶と組合の概要等について説明を受けた後、二班に分かれ原木置き場より順次工場内部を担当職員の方の説明を受けながら見学しました。ロータリースで剥かれ細い芯のみとなった原木を手にした参加者は、合板加工技術の進歩に目を見張っていましたが、参加者には合板を扱う事業者もいましたが、ヒノキのみの合板でも強度が確

保できる製品ができていることに驚いていたようです。工場見学でも製品を運搬するトラックがひっきりなしに出入りする様子に合板需要の旺盛さがうかがえましたが、無垢材を扱う事業者にとっては多少複雑な心境があったのではないかと思います。見学終了後に記入いただいた参加者アンケートでは「伐倒から搬出まで一連の作業を見たい」「作業に従事している方と意見交換がしたい」「集成材工場やバイオマス利用施設の状況も知りたい」「木材に関わる者として大切に使用していきたい」といった前向きな記載が多かったことから、一定の成果があった見学会になったと思われれます。今後アンケートで出された要望なども参考に、川下と川上が連携しお互いの立場を尊重しつつ木材利用の推進に繋がるような取り組みを行っていききたいと思います。

中部森林管理局で消防訓練を開催

【経理課】中部森林管理局では、十一月二日秋晴れの下、消防訓練を行いました。

今回は消防署の助言により、事前の周知事項は日時のみとし、避難指示等に基づく各職員の自主的行動が試される訓練となりましたが、非常持出袋を背負い避難された職員等、それぞれが役割を自覚し行動できており、立会われた消防署員からの指摘もありませんでした。その後、初期消火に重要となる消火器の使用法の指導では、屋内使用の場合、噴射した消火剤で視界が悪くなるため、退避路確認後に使用することや、天



全員避難終了、消防署員よりの説明の様子

第一発見者の「火事だー」の声と、鳴り響く非常ベルを合図に訓練が開始。消防署員立会いもあり緊張味の十一月九番通報。同時に館内放送での指示により、全職員が庁舎裏の車庫前に避難し、各課員の人数確認と報告まで短時間で完了できました。

井まで炎が届く状況では即避難すること等、消防学校卒業間もない若手署員からの初々しい説明も受けて、全職員が圧縮した水の入った消火器での実践訓練を行いました。日頃触れる機会の少ない消火器で、思わぬ方向への放水に沸く場面もありましたが、この日の訓練を通して、職員一同が火事を出してはならないことを再認識するとともに、万が一に備えた有意義な消防訓練になりました。



消火器で実践訓練

各地からのたより

「岐阜県フォレスト協会」

が設立されました

「岐阜署」岐阜県フォレスト協会は、岐阜県下の森林総合監理士、あるいはそ

れを目指す林業普及指導員や地域林政調整官等、森林施業プランナーで構成し、国内外の森林・林業・木材産業に関する最新情報から県内各地で営々と培われてきた現場の施業技術に至るまで、持続可能な林業経営に必要な知識、技術、人的ネットワークを充実させるために、現場起点のフォレスト活動に関する展開の支援を行うことを目的としています。事業としては、各種研修等の開催、林業関係者との交流、意見・情報交換、森林総合監理士資格取得のための研修会・



設立総会の様子

勉強会の開催などを行う計画で、協会の会長には岐阜県職員の森林総合監理士、副会長には岐阜署の松嶋総括地域林政調整官が選出されました。

国有林の会員は今のところ森林総合監理士の有資格者である岐阜署の総括地域林政調整官と主任地域林政調整官の二名ですが、岐阜県下の所属で森林総合監理士の合格者または森林総合監理士を目指す人にも参加を呼びかけ、積極的に参画していきます。

2016火山砂防フォーラムで 濁川復旧治山工事現場等の 現地研修会開催

「木曽署」十月二十日、二十一日に「2016火山砂防フォーラム」が木曽町木曽文化公園文化ホールで開催されました。このフォーラムは、全国の活火山を抱える自治体に関わり毎年開催されているもので、今年で二十六回目となります。

木曽町・王滝村では、平成二十六年九月に発生した御嶽山噴火災害を契機に防災減災への意識が高まり、特に噴火災害に重点をおきその取り組みがされているところ。そのため、本年度の火山砂防フォーラムは木曽町長を委員長とし、木曽町で開催されることとなりました。

初日は地元小学生や住民の研究発表、有識者によるパネルディスカッション等を行い、翌日の現地研修会では、当署の



施工中の土石流対策工（谷止工）を説明

治山担当者から長野県西部地震（昭和五十九年九月発生震源地王滝村）により発生した土石流で荒廃した国有林を三十九有余年にわたる治山工事により緑に蘇らせたこと等について説明をされるとともに、王滝村の国有林、濁川で施工中の土石流（噴火泥流）対策工の概要について説明を行いました。

参加した全国各地の火山地域の自治体等担当者二十名は、当署治山担当者からの説明を熱心に聞き入るとともに、「西部地震による土石流対策についての当時の施工状況」等の質問が相次ぐなど有意義な現地研修会となりました。

みうれ三ヶ村会議が

王滝村で開催

〔木曾署〕十月二十四日、旧付知町、旧加子母村、旧川上村（いずれも現中津川市）と王滝村の世話人の呼びかけにより、みうれ三ヶ村会議が王滝村滝越地区で行われました。この「みうれ三ヶ村」とは、東濃地域の旧三町村と王滝村滝越地区一帯を三浦と称していたことから名付けられ、峠を挟んで古くから交流がありました。

東濃森林管理署に集合した旧三町村の一行四十四名は、王滝村との境である真弓峠をマイクロバスで越え王滝村氷ヶ瀬地区に到着し、昭和五十九年九月に発生した御嶽山付近を震源とする長野県西部地震による土石流によって荒廃した国有



国有林内の復旧状況を遠望により説明

林内の復旧状況や、王滝村地区内で施工中の御嶽山噴火に伴う土石流対策工の現場を視察しました。

その後一行は滝越地区に移動し、王滝村の村長、議会議員、役場幹部と合流し、王滝村と旧三町村の今後について話し合いを持ちました。熱心な議論の後には、もう一つの峠道である白州峠から先人達が歩いた当時を偲び、成長した人工林を見ながら当時の苦勞を話題に帰路につきました。



参加者全員で御嶽山をバックに記念写真

林政ジャーナリストが

木曾署管内を視察

〔木曾署〕十月二十五日と二十六日に林政ジャーナリストの会による木曾署管内の視察がありました。

視察には林政ジャーナリスト六名と林野庁の間島広報官が訪れ、木曾森林管理署の新津署長ほか職員が現場等を案内しました。

冒頭、署長から木曾署業務概要の説明を行い、木材販売や民有林連携等の取り組みなどを紹介し、木曾町の御料館（旧帝室林野局木曾支局庁舎）を視察した後、へぎ板細工を手がける小林へぎ板店において、熟練の手業でネズコの板を手で薄く「へぐ」（半分に何回にも分けて裂いていく）作業を見学し、簡単そうに



熟練の「へぐ」作業を見学

見えて実際に体験してみると途中で切れてしまい非常に難しいことを実感していました。



（株）勝野木材社長より説明の様子

その後、木曾官材市売協同組合の原木販売土場を視察。「木曾の大径木がずらりと並んだ土場はなかなか壮観。それに小雨に濡れていたためか却ってヒノキの香りが匂いたつように感じられ、ひと粒の種子からここまで大きく育った長い時の流れを感じた。」とのジャーナリストらしい声が聞かれました。

また、株式会社勝野木材では、木曾ヒノキが減少していく中で木曾の人工林ヒノキに軸足を移し、山元と消費者を結ぶ明確なビジョンに基づき、積極的な経営戦略を打ち出す勝野社長の説明に「持続可能な森林・林業の明るい展望も開けるのではないか。」との感想もありました。



晴天の御嶽山をバックに記念撮影

二日目は、昭和五十九年九月に起きた長野県西部地震により発生した御嶽崩れの源頭部を視察し、間近に見る源頭部からは土石流の流下した痕跡を確認。その後、王滝村の濁川に移動し、この地震による土石流で荒廃した国有林内の復旧状況や、平成二十六年九月の御嶽山噴火に伴う土石流対策として緊急的に行った除石箇所と現在施工中の土石流対策工を視察しました。

二日間の案内を通して林政ジャーナリストから、「ポスト木曾ヒノキの『マルコウマルコクきそひのき』の販売、官民共同のカラマツ振興の取り組みに敬意を表する。」「国有林治山技術者の熱意と努

御嶽山観測体制の強化に係る

説明会を開催

力、一般市民との共同による継続的な森林再生活動等、国有林ならではの長期プロジェクトの意義と成果に改めて思いを深くしている。」とのありがたい言葉も寄せられました。

今後も、地域に根ざした国有林の取り組みを紹介し理解を得るため、積極的な情報発信に努めていきたいと考えています。

「木曾署」木曾森林管理署で十一月十日、気象庁東京管区気象台及び長野地方気象台が、平成二十六年九月二十七日の御嶽山の噴火災害を踏まえた観測体制の強化に係る説明会を開催しました。

この説明会は、職員のスキルアップを図るため木曾署各グループ等の主催による様々な検討会の一環として開催したもので、国有林野の使用承認により気象庁が御嶽山の監視体制強化を図るため観測施設の追加整備を行い運用が開始されたことに合わせ、東京管区気象台に説明会開催を依頼したところ快く承諾をいただき開催したものです。

気象庁からは、東京管区気象台総務部業務課小野沢調査官、長野地方気象台上野次長ほか総勢五名から観測機器の整備前と整備後の観測体制、観測機器の説明、機器設置後運用を開始した機器による現在の御嶽山の活動状況の説明があ



熱心に説明を聞く木曾署職員

の高さや地震の回数が、平成二十六年九月以前の状態に戻っていない状況であるとの報告もありました。

その後の意見交換では、当署職員より「地域住民はもとより観光客の方々に対し、現状を伝達することができ、風評被害からの一助になる。」「気象庁と森林管理署が連携を密にすることにより、事務処理がスムーズに運び一層迅速な協力体制がとれるのではないか。」といった声もありました。

これまで、密接な情報交換ができていなかった反省も踏まえ、林野庁と気象庁が地域住民をはじめ国民の安全・安心のために、今後とも連携を密にしていくことを確認し有意義な説明会を終了しました。

行事・会議等の予定

◎カラマツ研究発表会

1月11日 塩尻市

◎平成二十八年度

第二回森林管理局事業担当課長会議

1月16～17日 林野庁

◎砂防・治山長野県地方連絡調整会議

1月25日 長野市

◎中部森林技術交流発表会

1月31日～2月1日

中部森林管理局

◎森林管理局治山課長会議

1月31日 林野庁



「岐阜署、岐阜西部治山事業所」

治山技術官 加藤 里美

岐阜西部治山事業所は、岐阜市のシンボル金華山の麓に位置し、岐阜森林事務所と事務所を一つに、業務に励んでいます。所管する区域は、長良川流域と揖斐川流域の国有林内で北は郡上市白鳥町、西は福井県境の揖斐郡揖斐川町にまで及びます。

私は治山業務に携わるようになってから2年目で経験も浅く、分からないこともまだまだ沢山ありますが、周囲の方に指導や助言を頂きながら業務にあたっています。



榑原谷国有林の谷止工

現在、発注した工事の監督業務を行っています。多くは平成二十年の集中豪雨により被害を受けた揖斐川流域の国有林内の山腹崩壊地や荒廃渓流地の復旧に向けた治山事業を実行しています。



西美濃のマチュピチュとも呼ばれる上ヶ流地区の茶畑

榑原谷国有林内の施工地に行く途中の揖斐川町春日上ヶ流地区は谷を横切った先に、突然なだらかな丘の上に茶畑が広がっています。「天空の遊歩道」が整備されており、標高四四〇メートルから眼下の山間に広がる一面の茶畑の絶景は、「西美濃のマチュピチュ」とも称されるようで、他県からも多くの観光客が訪れており今、話題のスポットになっています。

また、足打谷国有林に行く林道が平成二十年に被害を受け、復旧していないことから、揖斐川町池田山を迂回して施工地に向かいますが、池田山は池田町と揖



施工中の足打谷国有林の谷止工

斐川町（旧春日村）に跨がる、標高九二四メートルの山で、ハンググライダーやパラグライダーの発進基地があり、そこからパノラマビューが眼前に広がっています。濃尾平野や空気の澄んだ晴れた日には北アルプスや南アルプスを望むことができます。



池田山からの眺め

できます。また現在、都市近郊林である岐阜市金華山国有林においても治山工事を実施しています。集中豪雨の際に雨水により林地が浸食、更に下流住民宅の一部に浸水する事態が発生したことを契機に、住民の安全確保のため予防治山工事を実施しています。

金華山は一年中観光客が多く民家も近接しているため地元住民への説明や、金華山が指定されている文化財保護法、景観法、風致条例など多くの法令制限の手續きが必要であり、普段の山奥で行う工事とは異なる面も多いので細心の注意を払いながら無事工事が完了するよう努めています。



岐阜市のシンボル「金華山」



昼神温泉郷 遠景

阿智村は、長野県の南西部に位置し、美人の湯と名高い「昼神温泉郷」を核に、環境省から認定された日本一美しい星空や、五千本の花桃、二百七十年続く伝統花火など豊富な地域資源に加え、東山道など万葉の歴史や満蒙開拓平和記念館がある奥深い地域でもあります。



また、昭和三十一年に会地、伍和、智里村が合併して、本年で六十年を迎えるとともに、浪合村と合併して十年、清内路村と合併して七年となります。

◆昼神温泉郷



昼神温泉の赤い橋

南信州最大の温泉郷でもある昼神温泉郷は、昭和四十八年に発見された新しい温泉郷で、泉質は、アルカリ性単純硫酸黄泉、水素イオン指数を示すPHは9.7。これは、数ある温泉の中でも日本屈指の強アルカリ性であることを示しています。さらに、古い角質をとりすべすべの滑らかな肌にするアルカリ性泉質に加え、保温に欠かせないナトリウムイオンと塩素イオンも豊富に含まれています。

◆日本一の星空

一度でも昼神のお湯につかったことのある人なら、このすべすべ感を体験されたことと思います。

阿智村は、環境省が実施している全国星空継続観察で、平成十八年度「星が最も輝いて観える場所」の第一位に認定され、連日のようにメディアで紹介されました。

全長二、五〇〇メートル、高低差六〇〇メートル



咲き誇る花桃

◆花桃の里とはなもも街道
四月中旬から五月中旬にかけて、阿智村一带は紅白とピンクの花々で染まりま



阿智村 日本一の星空

す。

木曾から清内路を越えて伊那谷を結ぶ国道二五六号線は「はなもも街道」と呼

ゴンドラで上がること約十五分。標高一、四〇〇メートルに位置する「天空の楽園へブンスそのはら」を会場に行われている「天空の楽園 日本一の星空ナイトツアー」は今年で五年目のシーズンを迎えています。絶景に会うために、多い日は一晩で三千人以上が参加するなど、全国からたくさんの方が訪れています。

◆東山道

東山道は大正元年(西暦七〇一年)に大和朝廷の命により、近江(滋賀)を起点に美濃(岐阜) 信濃(長野)を経て、出羽(東北)へつながる一、〇〇〇キロメートルにおよぶ官道としてつくられました。

なかでも、信濃国阿智駅(阿智村)と美濃国坂本駅(中津川市)を結ぶ行程は、山深い「神坂峠」を越える約四〇キロメートルの難所でありました。

はなもも街道や桃源郷と呼ばれる背景には、静かな山里を花でいっぱいにして、大正十一年から一本一本地道に植えた情熱のラリーがありました。



東山道 園原

お問い合わせ

阿智村役場

TEL 0265-43-2220

http://www.vill.aichinagano.jp/